

汽水湖内で確認されたエゾアカガエル *Rana pirica*

*¹ 照井滋晴・前田潤

*¹ 085-0816 北海道釧路市貝塚 NPO 法人環境把握推進ネットワーク-PEG

序 文

エゾアカガエル *Rana pirica* は、北海道の平地の池や湿地周辺、森林や渓流、高山部まで生息しているアカガエル科のカエルである。エゾアカガエルは、成体になると産卵期を除きほとんどの水には入らないと考えられている。また、一般に両棲類は塩分耐性が低いと言われている。しかし、特定外来生物ウチダザリガニの調査の際、一例ながら非繁殖期である11月に汽水湖の湖岸水底からエゾアカガエルが捕獲されたため報告する。

調査地及び調査方法

調査は、北海道釧路市春採の市街地に位置する春採湖（北緯42度58分、東経144度23分）（図1）において実施した。春採湖は海跡湖であるが、現在も短い河川を通じて太平洋と繋がっている汽水湖である。本調査は特定外来

生物であるウチダザリガニをタモ網で捕獲することを目的に実施した。

結 果

調査を実施した2011年11月30日10時45分頃、春採湖の湖岸の水底からエゾアカガエル1個体が捕獲された（図2、図3）。捕獲地点の水深は70cmであり、底質は砂泥であった。また、捕獲地点における気温は-1.0°C、水温は3.4°C、pHは7.96、DOは13.46mg/l、塩分濃度は、電気伝導度（EC）の測定結果184.2ms/mから換算した結果、約8‰（0.8%）であった。捕獲したエゾアカガエルの体長の計測は実施しなかったが、前肢の第一指のつけ根に婚姻瘤が確認できたため成熟雄と判断した。

考 察

捕獲されたエゾアカガエル成体は低水温のためかほとんど動かず越冬状態であると考え

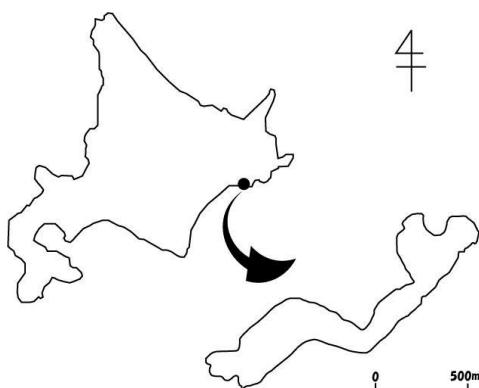


図1. 調査地(春採湖)



図2. エゾアカガエルを捕獲した春採湖湖岸の様子

14 汽水湖内で確認されたエゾアカガエル *Rana pirica*



図3. 春採湖の水底から捕獲されたエゾアカガエルの成体雄

られた。一般的にエゾアカガエルは河川や池の水底で越冬すると考えられており、春日井ほか(2008)や竹中(2008)によって河川内の越冬について報告されている。本調査によってエゾアカガエルが捕獲された地点は、河川のような冬期に凍結しない流れがある場所ではないが、汽水湖であるため淡水よりも低い温度でないと凍結しないと考えられることや湖

岸に生育するヨシ *Phragmites australis* 等の枯草が水底に堆積し温度が低下しにくい隠れ場所があることから越冬することが可能な場所であると考えられた。このことから、エゾアカガエルが春採湖の湖岸水底を越冬場所として利用していた可能性は高いと考えられた。本調査の結果から、エゾアカガエルは湖の水底を越冬場所として利用していると考えられた。また、塩分耐性が低いと考えられている両棲類が、8% (0.8%) と低い数値ではあるが、汽水湖内で越冬している可能性が浮上したことは興味深い発見であった。

引 用 文 献

- 春日井潔・虎尾充・竹内勝巳.2008.サケの産卵床から発見されたエゾアカガエル.爬虫両棲類学会報 2008(1):1-3.
竹中悠.2008.外来種アメリカミンクによる越冬中のエゾアカガエルの捕食記録.爬虫両棲類学会報 2008(2):101-103